事例No.	2167
公表年度	R4
団体の属性	特別区
団体名	東京都練馬区

事例区分	DX

タグ	・福祉・介護 ・ICT ・少子化・人口減少

事例種類	孤独・孤立対策

事例内容・タイトル

コロナ禍におけるオンラインプログラムによる若者自立支援

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

187 コロナ禍におけるオンラインプログラムによる若者自立支援【東京都練馬区】

事業の概要

○　練馬区では、不登校やひきこもり状態で孤立し、社会とのつながりを失っている方（15歳～49歳）を対象に、「居場所事業」を令和２年６月より実施している。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、いくつかのプログラムをオンラインで実施している。

○　プログラム内容に他の人との会話があるが、他の人と同じ場所(人前)で話すことを怖がる方もいるため、Web会議システムを利用して、会話プログラムを実施している。これまで、「オンライン料理教室」や、「ストレッチ・ヨガ」などのプログラムを実施した。

○　対面とオンラインでは、コミュニケーションの質の面で異なる部分がある。例えばオンラインでは、常に誰かが話をしなければならないような雰囲気となってしまうことがあり、課題点でもある。



【参考情報】 人口：74.0万人
関連URL：https://kyodonet-nerima-fs.net/

もっと知りたい！　担当者にインタビュー



取組の経緯・きっかけを教えてください。

（総務省）



令和２年度に緊急事態宣言が発令された際、「居場所」に来所制限がかかったため、来所している若者とのつながりが切れないように、オンラインでつながろうとしたのがオンラインプログラム開催の経緯です。

（練馬区）



事業の近況を教えてください。



令和3年度の「居場所」の利用者数は、のべ1,573人でした。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、現在は対面でのプログラムが中心となっていますが、感染が拡大した場合や利用者の意見も踏まえて、オンライン形式のものも検討しています。



これから事業を考えている自治体に向け、一言お願いします。



「居場所事業」は、対象者に社会とのつながりを持ち直してもらうための事業です。それゆえ、利用者に家から一歩踏み出してもらい、対面形式で行うことがベストですが、感染症や利用者の心理状態で、それが難しい場合もあります。そういった場合に、適宜オンライン形式を利用しつつ、対面でのコミュニケーションを意識してプログラムを実施することが重要であると考えています。

★担当：練馬区教育委員会事務局こども家庭部 青少年課★

令和3年度事業費　一千円